

横瀬川ダム環境モニタリング委員会（第6回）の審議概要について

横瀬川ダム環境モニタリング委員会（第6回）を下記のとおり開催しましたので、その審議概要を公表いたします。

記

開催日 平成 29 年 2 月 10 日（金）

会場 四万十市社会福祉センター

○目的

横瀬川ダム建設事業による環境への影響検討結果に基づく環境保全措置の具体的手法の実施、モニタリング調査等に関して事業者へ指導・助言を行うことを目的として開催しております。

○審議概要

■水質

- ・濁水対策の前後について調査頻度を高くモニタリングし、効果を定量的に評価しながら工事を進めていくこと。

■河川生態系典型性（アユ）

- ・四万十川から遡上するアユを確認する Sr/Ca 分析は継続実施する方向で検討すること。
- ・「SS25mg/L を連続して超える日数」について、長期化しないよう努力すること、また連続した場合の原因について考察すること。

■湿地環境

- ・整備する湿地環境の維持について成功事例を掘り起こし、行きたくなるような楽しい場所になるよう工夫することが課題である。
- ・湿地環境の水量確保が大切で、足りない場合は他の場所からの引き込みも検討する。また貧栄養な水質も重要であり、栄養塩を調べること。
- ・生活史（ヤゴの期間）が長い種が生息するようになれば生態系が安定していると判断できるので、そのような種が定着しているかを確認する必要がある。

■陸域生態系上位性、ヤイロチョウ

- ・猛禽類、ヤイロチョウなどの重要種については、モニタリングを継続し、工事の影響範囲に繁殖する場合は適正なミティゲーションを行い、順応的に対応すること。
- ・「猛禽類保護の進め方」の繁殖評価に該当しない場合の表現を再検討すること。
- ・ヤイロチョウは、営巣地と餌場の確保が重要で、生物多様性の視点で横瀬川ダムの環境保全を図れば、日本に誇れるヤイロチョウの里となる。
- ・工事の影響が全くなかったかは判断が難しいため、調査結果については、今年の結果

からわかったことを限定的に表記すること。

■全般-昆虫

- ・モニタリング調査で対象となっていない陸上昆虫類は、今後「河川水辺の国勢調査」で調査する。